

| | | | |
|-----|--|-----|---------|
| 会議名 | 令和8年度 第1回佐久市社会教育委員会議 | | |
| 期 日 | 令和8年4月27日(月) | | |
| 場 所 | 佐久市生涯学習センター 会議室1・2 | | |
| 開 始 | 午後1時30分 | 閉 会 | 午後2時45分 |
| 出席者 | <p>【委員】 原 英正委員、依田 とく代委員、清水 由実子委員、大塚 寛美委員、 奥村 繁子委員、滝澤 良淳委員、岩井 佑樹委員、中澤 功委員、 小林 英明委員、和光 智恵子委員 (欠席2名)</p> <p>【事務局】 生涯学習課長 木下、生涯学習係長 玉置、生涯学習係 保科、 生涯学習指導員 伴野・浅沼・吉澤</p> | | |

1 開 会 依田副委員長

～新任委員(小林委員)への委嘱書交付～

2 あいさつ 原委員長

3 会議事項

(1) 令和8年度佐久地区社会教育連絡協議会総会研修会について

委員長：事務局から説明をお願いします。

事務局：読み原稿案とスライドの資料を照らし合わせながらご確認をお願いします。グループワークの後に、最初から通しでのリハーサルも行いたいと考えているのでお願いします。

～グループワーク～

〈各グループからの発表〉

【CS（コミュニティ・スクール）グループ】

委員：スライド11から13番にかけて、多世代交流グループの活動が終了し、2つのグループが残ったという経緯から、スムーズにCSグループの発表（スライド14番）へ繋がるような説明の工夫をしたい。

委員：コミュニティ・スクールは学校教育課で取り組んでいることが多い事業であるため、社会教育委員としてどう主体的に関わってきたのか、という前提部分をしっかり説明する必要がある。

委員：スライドの文章をまとめて一気に読むのではなく、「丸1を読んだら丸1の補足説明をする」というように、項目ごとに区切って進行する形にしたい。

委員：スライド16番（成果）について、社会教育委員としてのプラス面に留まらず、「横の繋がりが作れたことで学校側にも新たな気づきがあり関係性が強まった」「学校が積極的に取り組んでくれたおかげで、子どもたちのCSに対する理解も高まった」という、学校や子どもたち側の観点での成果も付け加えたい。

【子育て支援グループ】

委員：スライド22にある「縦割り行政の壁」という表現について、単に行政に対して踏み込むといった意味合いではなく、「社会教育委員としてどこまで仕事をしたらいいのか」という視点での表現に修正したい。また、スライド17の「教育移住者」という言葉は一般に伝わりづらいため、初めて聞く人にもイメージが湧きやすい表現に工夫する必要がある。

事務局：いただいた意見を踏まえ、表現のニュアンス等については事務局にて修正・調整を行う。

【通しリハーサルの実施】

全体の時間配分（30分）とシナリオの繋がりを確認するため、本番を想定した通しリハーサルを実施。

【リハーサル後の質疑・意見交換】

委員：スライド9番と11番について、画面の表示内容と読み上げ原稿の文章量に差があり、目で追い切れなかったため、言葉を付け加えるなどスライドの内容を調整してほしい。

委員：相談窓口のカード作成について、最初は情報を全て載せようとして分かりづらくなってしまったため、「学校の悩み」と「体や心の悩み」の2つに大きく分けて簡潔なカードに仕上げた、という作成経緯をシナリオに盛り込んでほしい。

委員：CSグループの発表構成について、「活動から見えてきた課題」と「成果」の順番を入れ替えて、先に成果を伝えた方が良いのではないか。

事務局：本来は「こういう課題が見えてきたので、こういう取り組みをし、その結果成果に繋がった」という流れである。子育て支援グループも同じ流れで進行するため、ここだけ構成を変えると聞き手が分かりづらくなる可能性がある。順番は変更せず、全体の成果へと繋がる理由や文脈を明確にするよう事務局にてシナリオを整理させてほしい。

4 その他

5 閉 会 依田副委員長